



学校教育目標 進んで学ぶ子 仲良くできる子 たくましい子  
児童数 男子487名 女子461名 計948名

㊦っかりと聞き・㊦くわく未来を語り・㊦すんで学び・㊦れにも仲良くできる しわすだっ子

SKY 擬人化



作絵 鈴木ひかり(6年3組)

ちゅうじょ  
**忠恕のこころ**  
～ 渋沢栄一翁の精神 ～

校長 石井 宏明

本日から令和2年度も後半に入ります。各ご家庭の皆様におかれましては、先月の授業参観に多くの方々にお越しいただき、子供たちや担任が真剣かつ楽しく学んでいる姿に熱い視線を投げかけていただき、子供たちも一段と張り切って学んでおりました。誠にありがとうございました。

10月になると何年か前の研修会で素敵な言葉に出会ったことを思い出します。

それは、「忠恕(ちゅうじょ)のこころ」です。

この言葉は、埼玉県の大偉人の一人でもあり、「21世紀彩の国郷土かるた」の三人札、そして、令和6年度から1万円札の肖像になる予定でも知られております「渋沢栄一翁」が、ご自身の生き方の規範とした言葉だそうです。

「忠恕」を広辞苑で調べてみると、まごころと思いやりがあること。忠実で同情心が厚いこと。とありました。

もともと、この「忠恕」は「論語」や「中庸」に出てくる言葉で、「夫子(孔子)の道は忠恕のみ」「忠恕は道を違(さ)ること遠からず、これを己に施して願わざれば、また人に施すなかれ(忠恕であれば、道からそれほどはずれてはいない。自分が他人からされたくないことは他人にしてはならないの意)」に表されるよう、「忠」とは自分の気持ちや心を尽くす「まごころ」であり、「恕」とは自分の心を他者に推して「思いやる」こととなります。

渋沢翁は、初の民間銀行を設立されたり、日本の株式制度の設立に貢献したりと、明治期の日本経済の立役者の一人であるばかりか、一橋大学や東京経済大学、日本赤十字社の設立や養老院の院長を務めるなど、教育や社会福祉事業にも情熱を注いだといわれております。その渋沢翁が生涯を貫いた思想が、郷土埼玉ではぐくまれた「忠恕のこころ」であるといわれております。

この精神は、豊かな人間関係が築きにくくなってきている現代では、さらに求められる精神であると考えます。

ご家庭における子育てや学校教育におきましても、「自分が望まないことは、自分の方からも他の人に対して行わない」という具体的な行動規範を大切にしていかなければならないと考えております。

確かに、大人であっても子供であっても、相手に対して不満を抱くことがあります。

しかし、自分が不満に思ったり、相手に望んだりしていることを自分は相手や他の人に対して行っているのか、という自分自身の心のあり方を見つめることも重要ではないでしょうか。

本市では、10月9日を「川口市道徳の日」に設定したり、「中学生いじめゼロサミット」に小学生も参加できるようにしたり、「ライフスキルかわぐち」により自尊感情の醸成や豊かな人間関係づくりに取り組んでおります。

また、本校におきましても、あいさつ運動や人権の花(思いやりの花)運動、いじめ0への取組、さらには新型コロナウイルス関連による差別の根絶など、自分の考えをしっかりともち、相手にわかりやすく伝えることや、相手の考えをよく聞き、相手の立場や気持ちを考えた言動ができるよう、全教育活動を通して取り組んできております。

このような取組や日々の教育活動の中で、今月は特に「忠恕のこころ」の精神を尊重し、「家庭・地域とともに 未来を拓く しわすだ笑楽幸」の実現を目指してまいりたいと存じます。